

社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワーク
2021年度 事業計画書(案)

<実施期間>

2021年4月1日～2022年3月31日

<2021年度の方針>

2008年の設立以来14年目を迎える本年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大によって、さらに深刻化した課題への対応とともに、SDGsの達成や持続可能な成長の実現に向けた本質的な取り組みを促すために、多様な主体による連携を、特に地域において推進できるよう、働きかける。

(1)NPO/NGOが自ら取り組む社会的責任(以下、SR)の普及

NPO/NGOが自らの組織で取り組むSRを推進するため、具体的な取り組みを紹介し共有する機会を広げる。

(2)他セクターとの協働によるSRの普及

さまざまなセクターと連携してSRへの取り組みを促進するべく、NPO/NGOの取り組みや成果を他セクターと共有し、また他セクターの取り組みからも学ぶとともに、他セクターのSRへの取り組みを促すNPO/NGOを育成・支援する。

(3)社会的影響力の大きな課題に対するマルチステークホルダープロセスの推進とアドボカシー(政策提言)の強化

SDGsや社会的孤立をはじめとする社会的な影響が大きな課題に対して、マルチステークホルダープロセスにより社会的責任が果たされることに尽力するとともに、その課題の重要性と具体策を提言するとともに、地球環境や貧困などの国際的な課題へのアプローチにおいてもSRへの配慮がなされること、またその担い手自身が社会的責任を果たすことの必要性を訴える。

上記方針を実現することを目的としつつ、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するために、下記のプロジェクトを中心として、フォーラムやセミナーなどは、当面の間はオンライン開催を原則とし、安全確保が見込める時点から対面とオンラインのハイブリッド開催とし、また、会費徴収については、昨年度に引き続き今年度も見合わせることにする。

<2021年度の事業計画>

(1)社会責任に関連する規格の策定・普及(主担当幹事団体: 難民を助ける会)

1.「ISO26000 Stakeholders Global Network(SGN)」のNGOメンバーとして、NNネット代表協議者(堀江)が参加する。ISO26000または社会的責任に関連する新たな規格の策定に向けて動きがある場合には、NGOセクターの意見を集約するとともに、他セクターを交えた議論の場に参加し、国内で共有の機会を設ける。

2.SGNを日本国内でフォローアップし、国内で他のステークホルダー(SJN:ステークホルダー・ジャパン・ネットワークメンバー)間での情報・意見交換を行う。また、新型コロナウイルスの影響で昨年11月の予定が延期された、北京で開催されるSGN主催の10周年イベント(6月9日・10日予定)にオンライン参加する。

3.ハンドブック『これからのSR—社会的責任から社会的信頼へ』、『策定に関わったNPOが読み解くISO26000』を関連イベントやホームページを通じて積極的に販売、または配付し、SRへの取り組みを推進する。

(2)地域における多様な主体によるSR推進(主担当幹事団体:IIHOE)

1.「地域における多様な主体によるSR推進プロジェクト」として、「多様な主体の協働で進めるSDGs」「マルチ

ステークホルダー連携」などのテーマでのセミナーや事例共有会等の開催をNNネットの地域会員団体、および関係する団体に対して呼びかけ、地域で本テーマに関するセミナー等を開催する。

その一環として、SRフォーラム(5月18日開催)では、「円卓会議の『これまで』と『これから』-「地域円卓会議」提案から10年間の実践から学ぶ」と題して、沖縄、島根県雲南市と、嗜癖・嗜虐行動を変化させたいと希望する人を支える「えんたく」という3つの実践事例をご紹介いただく。

(3)NPO/NGOの社会責任(NSR)への取り組み推進(主担当幹事団体:NPOサポートセンター、IIHOE)

1. NPO/NGOの社会責任(NSR)に関する啓発

NPO/NGOが社会的な信頼を獲得し、他セクターと協働して社会的課題を解決していくために必須であるNPO/NGO自身の社会責任への取り組みの必要性や実践事例、調査結果の共有などを通じて啓発するために、他の団体やネットワークと連携して、セミナー等を開催する(年度後半に開催予定)。

(4)SDGsと社会的責任(主担当幹事団体:難民を助ける会)

1. SDG市民社会ネットワークの社会的責任ユニットに参加する。政府が発表している「SDGsアクションプラン」に対する市民社会の立場から同ネットワークが作成する「ボトムアップアクション(仮称)」の策定や、次のハイレベル政治フォーラム(HLPF)に提出される自発的国別レビュー(VNR)に対して、さらに、各政党などが立案する政策案等に対して、社会的責任の観点からインプットを行う。

2. SDGsの趣旨や実践を地域において共有するための機会に積極的に参加・協力する。北海道国際交流センターが主催するSDGsイベント(9月18日・19日開催予定)に、2020年度に続いて協力するとともに、他の地域で開催される企画にも協力する。

なお、今年度のSRフォーラムならびにSRセミナーについては、現時点では以下の通り計画・検討している。

日時(開催形式)	テーマなど
5月18日(火)18:00-20:00 (オンライン)	SRフォーラム「円卓会議の『これまで』と『これから』 -「地域円卓会議」提案から10年間の実践から学ぶ」
7月13日(火)18:00-20:00 (開催形式未定)	SRセミナー(テーマ協議中※)
9月18日(土)・19日(日)のいずれか (時刻・開催形式とも未定)	SRセミナー in函館 (北海道国際交流センター主催事業と連携。テーマ協議中)
11月09日(火)18:00-20:00 (開催形式未定)	SRセミナー (テーマ協議中、ISO26000関連を想定)
2022年1月11日(火)18:00-20:00 (開催形式未定)	SRセミナー(テーマ協議中※)
2022年3月08日(火)18:00-20:00 (開催形式未定)	SRセミナー(テーマ協議中※)

※協議中のテーマとして、COVID-19がNPO/NGOセクターに与えた影響、ビジネスと人権、NPO/NGOのガバナンスが挙げられる。

2021年度組織運営(事務局業務)計画

<実施期間>

2021年4月1日～2022年3月31日

<業務計画>

1. 会議等の開催

(1) 第14回 通常総会の開催

日時:2021年5月18日(火)16:0000～17:30

会場:オンライン開催

議題:

- ・2020年度事業報告(案)・決算(案)の承認
- ・2021年度事業計画(案)・予算(案)の承認
- ・その他

(2) 幹事会の開催

- ・第138回幹事会 4月20日(火)14:30-16:00 オンライン開催
- ・第139回幹事会 5月18日(火)15:00-15:30 オンライン開催
- ・第140回幹事会 7月13日(火)14:30-16:00 (開催形式未定)
- ・第141回幹事会 9月21日(火)14:30-16:00 (開催形式未定)
- ・第142回幹事会 11月09日(火)14:30-16:00 (開催形式未定)
- ・第143回幹事会 2022年01月11日(火)14:30-16:00 (開催形式未定)
- ・第144回幹事会 2022年02月08日(火)14:30-16:00 (開催形式未定)
- ・第145回幹事会 2022年03月08日(火)14:30-16:00 (開催形式未定)

2. 会員管理(担当:HIF)

(1) 会員へのフォローアップ

- ・会員の入会、継続、休会等に伴う業務
- ・会員メーリングリストの運営と管理
- ・会員に対して、幹事会終了後、幹事会議事抄録を配信
(2021年度も、幹事会議事抄録の作成、会員MLへの投稿、ウェブサイトへの掲出は、持ち回りの前回の議長団体が担当。)

(2) 会員データベース管理

- ・会員情報の整理と管理

(3) 会費請求

- ・会員に対して会費の請求書を作成・送付(2021年度も、会費徴収は見合わせ。)

3. 会計(担当:NPOサポートセンター)

(1) 日常的な会計

- ・管理ルールに従い、入金・支払い・精算等の手続きおよび記録を行う。

(2) 資金管理と検査

- ・現預金などの日常の管理状況を検査する業務を行う。
- ・決算書の作成を行い、報告する。
- ・監事による監査を行う。

4. 広報(担当:NPOサポートセンター、IIHOE)

(1)ウェブサイト管理・運営に関する業務

- ・ウェブサイトの管理・運営を行う。
- ・外部からの代表アドレス宛ての問合せに対応する。

5. 在庫管理(担当:難民を助ける会)

(1)ハンドブックの在庫管理

- ・『これからのSR—社会的責任から社会的信頼へ』、『策定に関わったNPOが読み解くISO26000』の在庫の管理を行う。

6. 幹事会および総会準備に係る事務(担当:IIHOE)

(1)幹事会開催準備、報告

- ・幹事会開催の日程調整等

(2021年度も幹事会議事次第作成は持ち回りの議長団体が担当し、議事抄録作成、会員MLへの投稿、ウェブサイトへの掲出は、前回の議長団体が担当。)

(2)総会開催準備

- ・総会開催にかかる準備、資料作成等

以上